

オススメ本の紹介

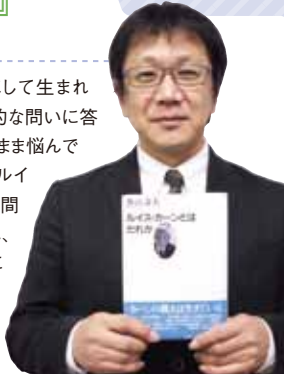


『ルイス・カーンとはだれか』

香山壽夫 著/王国社

建築は、どのようにして生まれるのか。その根源的な問いに答えを見つけれないまま悩んで

いた若き日の著者が出会った建築家ルイス・カーン。心の底から湧き起こる空間創造の瞬間を追い求めてカーンを訪ね、そこでのカーンとの心躍る体験をもとに語られる空間創造への言葉の数々。建築家を目指す学生に、ぜひ読んでほしい。



建築工学科
向山 徹 先生

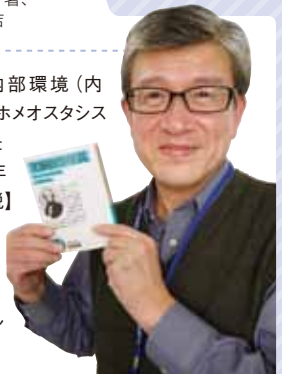


『実験医学序説』

クロード・ベルナル 著、三浦岱栄 訳/岩波書店

C.ベルナルは、内部環境（内分泌）説を唱え後のホメオスタシス理論に影響を与えた

実験医学の祖である。明治維新の3年前1865年に刊行された【実験医学序説】は、3編から成りその第1編 実験的推理（帰納と演繹、実験的規範の原理他）は圧巻である。科学倫理を修得し大学人となる広島工大生必読の1冊として紹介したい。



食品生命科学科
吉本 寛司 先生



『てんのじ村』

難波利三 著/実業之日本社

「ええ〜まいどお喧しいチンドンマン。道路上で小さなショーを行います。これがホンマのロードショー」

かつて大阪ナミナにおました芸人たちの貧乏長屋。掛け値なしの実話を紡いだ小説だ。戦中戦後の物資不足。ただでさえ収入の少ない極貧芸人たち。すべてを笑いに変える運しき、肩を寄せ合う暖かさが伝わります。ほっこりしまっせ・・・



知的情報システム学科
安部 伸治 先生



『雲の中では何が起きているのか 雲をつかもうとしている話』

荒木健太郎 著/ベレ出版

空に浮かんでいる雲がどのようにしてできるのか、大雨や突風な

どの気象災害をもたらす雲にはどのような特徴があるかについて、ゆるキャラを用いてわかりやすく説明しています。気象について興味はあるけれど、複雑な数式による説明が苦手という人にとって、非常に読みやすく書かれた1冊です。



地球環境学科
田中 健路 先生

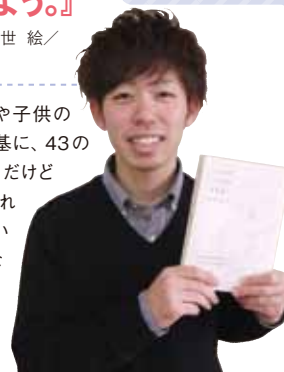


『こっそりさっそり まちをかえよう。』

三浦文典 文、斉藤弥世 絵/彰国社

日常の些細なことや子供の頃の自由な発想を基に、43の

アイデアで自分たちのまちを、こっそりだけごっそり変えていこうという作戦が書かれた本です。ポップなイラストで描かれているので、子供から大人まで、わくわくしながら読むことができます。日頃忘れがちな小さなことが意外と大切で幸せなことだなと思える1冊です。



環境学専攻
馬場 大志 さん



『吉沢久子の旬を味わう献立帖』

吉沢久子 著/筑摩書房

材料名と作り方が並ぶだけのレシピ集ではありません! 95歳の著者の食人生、お店の味や

家族の感想、お友だちとの交流などからヒントをもらい、そのエピソードとともに旬の献立が満載! この1冊さえ読めば、旬な「うちの味」ができちゃいます。この春から1人暮らしを始める人、趣味で料理を始めようと思っている人にオススメです。



生体医工学科
良海 枝利 さん



『TED 驚異のプレゼン 人を惹きつけ、心を動かす9つの法則』

カーマイン・ガロ 著、土方奈美 訳/日経BP社

以前「魅力発信グランプリ」(*)に参加した際、企業の魅力を上手くプレゼンするための参考になればと思い、この本を手に取りました。9章にわたってプレゼンテーションの心得が書かれており、非常に参考になりました。なお、当イベントでは敢闘賞を受賞しました。これからプレゼンを行う人は読んでおいて損はないと思います。



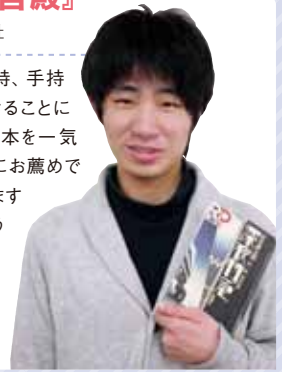
知的情報システム学科
杉本 稜 さん



『深夜特急 第1便 黄金宮殿』

沢木耕太郎 著/新潮社

何か空虚さを感じた時、手持ち無沙汰の時、生きることに執着したい時、夜に本を一気に読んで何かしらの爽快感を得たい時にお薦めです。主人公は特に目的もなく旅をしています。私たちが海外へ行ったとき、どのような心構えでいけばよいかを教えてください。私たちがどこからきて、どこへ向かうのか、ヒントになる1冊です。



知能機械工学科
川角 光毅 さん

※「魅力発信グランプリ」とは、社団法人中国地域ニュービジネス協議会が主催し、学生が企業を訪問取材し、その企業の魅力をまとめたものを、学生・大学関係者・取材先企業の方の前で発表するコンテスト形式のイベント。